

# 野菜・花きの営農情報


《7月中旬～8月中旬の技術対策》


令和5年7月20日発行  
第3号  
空知農業改良普及センター本所  
Tel : 0126-23-2900  
Fax : 0126-22-2838

## 【全作物共通】

- ① 夏場は多くの病害虫の発生しやすい時期となります。発生初期を見逃さないためには、ほ場観察が大切です。早期発見と適期防除を行きましょう。
- ② 農薬散布前には最新の登録内容を確認しましょう。また、農薬使用基準を守り、薬害や他作物への農薬飛散に注意して防除を実施して下さい。
- ③ ハウス内は高温で経過するため、換気を十分行いましょう。特に日差しの強い場合は、遮光資材などを活用しましょう。
- ④ 気象条件や生育に応じた適切なかん水と追肥、葉面散布を行い、草勢維持と着果の安定に努めましょう。
- ⑤ 収穫終了後は、緑肥の導入や計画的な土壌消毒に努め、病害虫の軽減を図って下さい。

## 【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
メロン	<ul style="list-style-type: none"><li>・収穫直前(5日前頃)からの温度管理の目安 日中 午前 25℃、午後 20℃ 夜間 12℃程度 やや低めの温度管理で、糖の転流を促進しましょう。</li><li>・収穫直前のかん水管理 かん水を控え、糖度の上昇を図ります。 日中、急激な高温等で萎れる場合は、走り水程度のかん水で萎れを防止します。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ハダニ類が発生しています。発生状況に応じて薬剤を選択し、適期防除をしましょう。</li></ul>
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"><li>・5月上旬定植‘キャロル10’では、7月15日現在、第1～2花房の収穫作業が進んでいます。生育は概ね順調であり、第8花房の開花始、第3花房の着色始となります。</li></ul> <p><b>【管理のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・高温期で蒸散が盛んになる時期です。かん水はマルチ下の土壌水分を確認し、こまめに行いましょう。</li><li>・なり疲れを起こしやすい時期です。着果数が多過ぎると、草勢の低下や果実肥大が不十分になる可能性があります。一花房30～40果程度になるよう摘花しましょう。</li><li>・また、着果負担により、カリ欠乏からの葉先枯れ症状が発生しやすくなります。早めにカリ成分の多い肥料を追肥しましょう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・灰色かび病、アザミウマ類の発生が一部に見られます。</li><li>・古くなった花弁から灰色かび病が発生しやすくなるので、花弁の除去と早めの防除を行いましょう。</li><li>・葉先枯れ症状の葉（写真1）、病葉を早めに摘葉しましょう。</li><li>・収穫が終わった花房下の葉を摘葉し、病害の予防に努めましょう。</li></ul>  <p>写真1: 葉先枯れ症状の様子</p>

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 気温変化や生育状況に応じたかん水と追肥、ハウス内湿度の確保に努めましょう。</li> <li>• 株に対する負担を極力抑えるために、摘心や摘果は遅れないようにしましょう。また、生育量に合わせて側枝を伸ばすなどし、草勢の確保に努めましょう。</li> <li>• 葉の寿命は展開後 30～40 日程度です。1 株当たりの古葉の葉かきは 2 日おきに 1 枚程度にとどめましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ベと病が発生しています（写真2）。発生状況に応じて薬剤を選択し、適期防除をしましょう。</li> </ul>  <p>写真2: きゅうりのべと病</p>
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 6月上旬定植‘味平’では、7月15日現在、着果期をむかえ、つる長300cm、節数22節となっています。</li> <li>• 肥大に必要な養分を確保するため、葉を健全に保ちましょう。</li> <li>• 収穫の目安は花梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• うどんこ病、果実斑点細菌病等を初期に防除し、日焼け果や突起果の発生を防止しましょう。</li> <li>• 強風等により葉の傷みが見られる場合は、雑菌の侵入が懸念されるため発生状況に応じて防除しましょう。</li> </ul>
夏秋いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 弱小脇芽、古葉、ランナーを除去し、果実肥大を促しましょう。</li> <li>• 日中の温度が25℃以上にならないようにし、遮光資材を積極的に活用しましょう。</li> <li>• 乾燥・過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行いましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 花卉の落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。</li> <li>• アザミウマ類、ハダニ類、アブラムシ類の発生に注意し、ハウス内及びほ場周辺の雑草除去と薬剤による防除を徹底しましょう。</li> </ul>

**【野菜（葉茎菜類）】**

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策						
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 早生品種は倒伏期、中晩性品種は球肥大期となり、病気にかかりやすい時期です。葉が傷むと今後の肥大に影響するため、適宜防除を行いましょう。</li> <li>• 変形、皮ムケ等の防止や着色促進による品質向上のため、適期に根切りを行いましょう。高温条件下の根切りは、日焼け果の発生につながるため、注意しましょう。</li> </ul> <p>○各品種の根切り時期（参考）</p> <table border="1" data-bbox="363 680 906 806"> <thead> <tr> <th>品種名</th> <th>根切り時期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>オホーツク222</td> <td>倒伏揃い後 7～10日</td> </tr> <tr> <td>北もみじ2000</td> <td>倒伏揃い後 10～15日</td> </tr> </tbody> </table>	品種名	根切り時期	オホーツク222	倒伏揃い後 7～10日	北もみじ2000	倒伏揃い後 10～15日	<ul style="list-style-type: none"> <li>• アザミウマ類やネギハモグリバエの発生が目立ってきています。発生状況に応じて薬剤を選択し、適期防除を行いましょう。</li> <li>• 軟腐病やりん片腐敗病の発生が見られます。曇雨天が続くと、白斑葉枯病（灰色かび病）や灰色腐敗病などの病害が発生しやすくなります。気象状況に応じて防除しましょう。</li> </ul>
品種名	根切り時期							
オホーツク222	倒伏揃い後 7～10日							
北もみじ2000	倒伏揃い後 10～15日							
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ハウス栽培では夏芽の収穫が始まっています。露地ではトッピングが行われました。</li> <li>• 立茎開始後、夏芽収穫中の追肥は約20日間で5回程度行います。窒素とカリを各5kg/10a追肥します。</li> <li>• 水分不足は夏芽及び翌年の春芽の収量低下、穂先の開き、曲がりの原因になります。かん水は適切に行いましょう。</li> <li>• うねの表面は過湿に注意しながら、常に湿った状態とし、うねの表面が白く乾いたらかん水しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ジュウシホシクビナガハムシ、ヨトウムシ、アザミウマ類、カメムシ類（写真3）などが発生しやすくなります。ほ場を観察し、防除を実施しましょう。</li> <li>• 曇雨天が続くと、灰色かび病が発生しやすくなります。適切な枝整理を行い、防除を実施しましょう。</li> </ul> <div data-bbox="1031 1169 1493 1518" data-label="Image"> </div> <p data-bbox="1031 1532 1493 1579">写真3:ツマグロアオカスミカメ</p>						

【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション	<p>3月上旬定植‘ミモザ(スタンダード)’では7月12日現在で、草丈79.2cmとなっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮光資材は天候に合わせてこまめに掛け外ししましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>収穫時期間近のかん水は、切り花の水揚げや日持ちを悪くするため、土壌水分を確認し必要量をかん水します。ただし、極端な乾燥は避けましょう。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採花後は、STS 処理剤ごとの規定の濃度、時間を守り、適切に処理しましょう。</li> <li>選花場内の湿度を下げるため、扇風機などを設置しましょう。</li> <li>降雨後の採花は前処理時間を延長し、STS の吸収量が不足しないようにしましょう。</li> <li>バケツは洗剤を用い洗浄を十分行い、前処理液の使い回しは避けましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>アザミウマ類、ハダニ類など害虫の発生は多くなっていません。定期的な防除に努めましょう。</li> <li>6月中下旬の高温多照により、葉先枯れが見られるほ場があります。その部分から病害が侵入する場合がありますので、定期的な防除を行いましょう。</li> </ul>
スターチス(シヌアータ)	<p>3月下旬定植‘トールブルー’では7月14日現在で、草丈93.2cm、抽台本数10.2本/株となっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>高温により萎れが生じると、抽台茎や花穂の曲がりにつながります。高温時は遮光資材を設置しましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一番花の花穂が色づき始めたら、かん水を控え軟弱化を防ぎましょう。</li> <li>一番花の採花が3割程度終了した頃から、二番花立ち上げに向け、かん水と追肥を徐々に再開しましょう。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>採花の遅れは、灰色かび病や花弁の色落ち、茎葉黄化などのクレームの原因となります。花序の先端までがく片が展開したら採花適期です。遅れないように採花しましょう。</li> <li>採花後、積算気温が1800℃・hrを超えると茎葉は黄化しやすくなります。選花場内は、通風を良くし、直射日光が入らないようにするなど室温を低く保ちましょう。</li> <li>出荷時、低温庫から出してすぐに箱詰めをすると、箱の中で結露しやすくなります。箱詰め前には外気温にならし、箱詰め時には、紙をはさむなど湿気対策をしましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>灰色かび病が下葉と一部ブラシに発生しています。</li> <li>特に、枯れた葉は灰色かび病の発生源となるので、取り除いて処分しましょう。</li> <li>採花後や枯葉除去後に、殺菌剤を散布しましょう。</li> <li>輸送中の灰色かび病発生防止のため、採花前に殺菌剤散布を行い、選花を厳格に行いましょう。</li> <li>ハダニ類、アザミウマ類の防除を定期的実施しましょう。</li> </ul>

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★